信達の歴史シリーズⅢ

人物からみた信達の歴史

第４回　虚無僧尺八の名人 神保政之助

村川　友彦（むらかわ　ともひこ）
福島県史学会
会長

今年３月11日、東日本大震災による犠牲者の慰霊法要が福島市山口の安洞院で「３.11祈りの日」として行われた。この日、全国各地から28名の虚無僧姿の尺八家が集まり、供養の曲を吹きながら境内を歩く虚無僧行列と、供養塔や本堂で追善献奏が行われた。

安洞院には、明治期に全国で有名な虚無僧尺八奏者の慰霊碑がある。神保政之助（じんぼまさのすけ）という人物である。同院は、以前から神保政之助の命日に献奏会を行ってきた。今号は虚無僧尺八（本曲）の名人と言われた神保政之助と虚無僧尺八、さらに虚無僧寺について取り上げ、信達の文化史の一端をみてみたい。

尺八の起源

日本の尺八の最古は、聖徳太子が愛玩した尺八が法隆寺に伝わるといわれているが、その裏付けは何もなく不確かである。しかし奈良正倉院御物の中に５本の尺八が遺されている。正倉院御物は聖武天皇が崩御し、その愛用品が天平勝宝８年（765）光明皇后により東大寺に寄進されたものである。御物のなかの尺八は、長さ１尺１寸から１尺４寸５分であり、古代雅楽に使われたとされている。

しかしその後の雅楽では、篳篥（ひちりき）や竜笛（りゅうてき）などがみられ、尺八は使われ

神保政之助

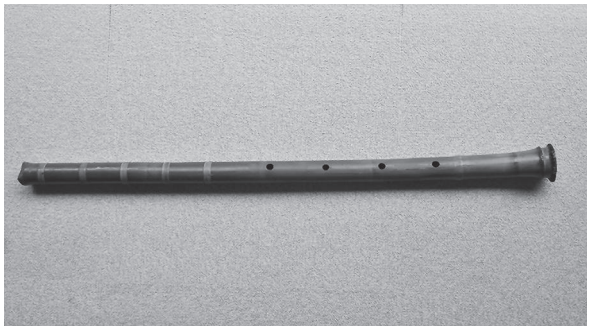
安洞院

なくなった。尺八が文献上に明確にみられるのは室町時代である。しかし平安時代の源氏物語には「さくはち」、鎌倉時代の説話集十訓抄に「尺八・琵琶をならし」などと書かれていることから、一部の人たちによって吹かれ続けられたと推察されている。また、中世には一節切（ひとよぎり）といわれる長さ１尺８分ほどの短い尺八が流行し、室町時代の一休禅師はこの一節切を吹いたという。現在の１尺８寸を基本とする虚無僧尺八が使われるようになったのは江戸時代といわれている。

虚無僧と尺八

虚無僧はその名が薦（こも）僧からそういわれたとあり、薦僧は虚無僧の前身とされる。この薦僧には、薦や筵（むしろ）を持ち野宿しながら尺八を吹く乞食で「ぼろぼろ」などともいわれた者と、自ら思想信念を持ち修行を目的とした者がいた。後者はいわゆる行者である。修行を目的にした行者薦僧が禅宗の一派として普化宗を起こし、尺八を法器としての修行を本来とした僧が虚無僧である。それが確立されたのが江戸時代であった。

江戸幕府では、長く続いた戦乱により急増した浪人の対策が急務であった。またキリシタン取締とともに、普化宗を臨済宗の一派とし臨済宗寺院を本山とする虚無僧寺が設けられて浪人たちの拠り所となった。幕府はその取締として下総国一月寺（いちげつじ）と武蔵国の鈴法寺を触頭（ふれがしら）とした。また、京都の明暗寺とともに全国の虚無僧寺を配下とする組織が形成されたのであった。



神保政之助製の尺八

安洞院

福島の虚無僧寺“蓮芳軒”

江戸時代、虚無僧寺は全国に百か寺程あったといわれ、そのなかで福島には蓮芳軒という寺があった。禅宗の祖とされる達磨大師を本尊として、現在の福島稲荷神社正面の鳥居の前にあった。明治２年の福島の絵図に蓮芳軒の名が記されている。ほかに福島県内にあった虚無僧寺は、東白川郡塙町に武音寺、同郡鮫川村に高岸寺、川俣町に清涼軒、二本松市に鈴沢寺、相馬市中村に喜染軒などがあったが、虚無僧寺は明治４年の政府による普化宗の廃宗令により消滅することとなった。

福島藩の藩士がまとめた記録『政事集覧』（福島市史資料叢書第60輯）に、享保６年（1721）９月に「上町風呂屋与伝　蓮芳軒と改度段　享保八卯五月朔日願済」と書かれていることから、享保８年（1723）には、蓮芳軒という虚無僧寺が存在したことが分かり、虚無僧寺は風呂屋を営んでいた。虚無僧寺と風呂屋については、藤田定興氏の「虚無僧と風呂」（『福島史学研究』復刊第25号福島県史学会）に詳しい。

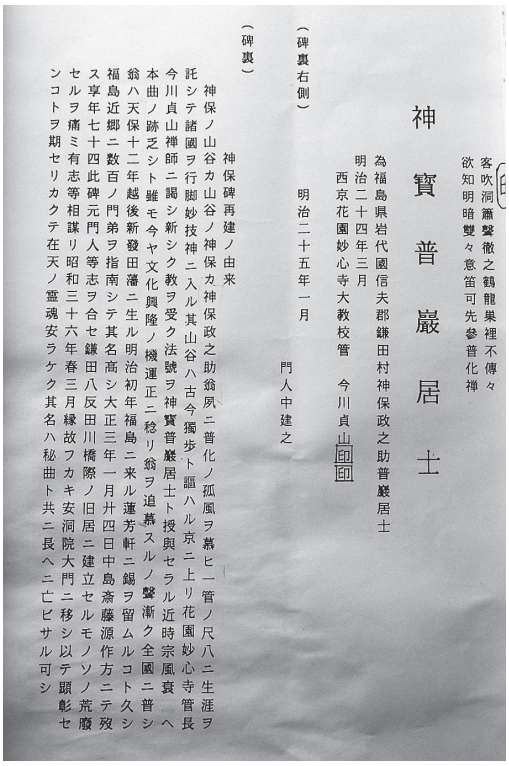
この蓮芳軒に近い上町にあった慈恩寺には、蓮芳軒に関する史料が保存されている。慈恩寺は現在春日町に移っているが、臨済宗妙心寺派で蓮芳軒の菩提寺であった。ここに蓮芳軒の位牌があり、それによる開基は慶長４年（1599）８月に古山一風とあり、歴代上座24名の名が載っている（「奥州虚無僧資料－福島県の虚無僧寺」『福島史学研究』復刊第10号）。

神保政之助の来福

江戸時代末から明治時代、虚無僧尺八の名人と言われた神保政之助が福島の蓮芳軒に来たのは、明治初年といわれる。「神保碑再建ノ由来」（安洞院）の碑文によると、神保政之助は越後新発田藩（新潟県新発田市）の藩士で、天保12年（1841）生まれ、一管の尺八に生涯を託し諸国を行脚し研鑽を重ね、京に上り臨済宗妙心寺官長今川貞山の教えを受けている。尺八名曲といわれる「神保三谷」は越後明暗寺の住職堀田待川との合作で、こ

神保政之助の顕彰碑

安洞院



（臣）客吹洞簫聲徹之鶴龍巣裡不傳々
欲知明暗雙々意笛可先參普化禅

神寶普巖居士

為福島県岩代國信夫郡鎌田村神保政之助普巖居士
明治二十四年三月
西京花園妙心寺大教校管　今川貞山（印）

（碑裏右側）
明治二十五年一月
門人中建之

（碑裏）
神保碑再建ノ由来
神保ノ山谷カ山谷ノ神保カ神保政之助翁夙ニ普化ノ孤風ヲ慕ヒ一管ノ尺八ニ生涯ヲ託シテ諸國ヲ行脚妙技神ニ入ル其山谷ハ古今獨歩ト謳ハル京ニ上リ花園妙心寺管長今川貞山禅師ニ謁シ新シク教ヲ受ク法號ヲ神寶普巖居士ト授與セラル近時宗風衰ヘ本曲ノ跡乏シト雖モ今ヤ文化興隆ノ機運正ニ稔リ翁ヲ追慕スルノ聲漸ク全國ニ普シ翁ハ天保十二年越後新發田藩ニ生ル明治初年福島ニ来ル蓮芳軒ニ錫ヲ留ムルコト久シ福島近郷ニ數百ノ門弟ヲ指南シテ其名高シ大正三年一月廿四日中島斎藤源作方ニテ歿ス享年七十四此碑元門人等志ヲ合セ鎌田八反田川橋際ノ旧居ニ建立セルモノソノ荒廢セルヲ痛ミ有志等相謀リ昭和三十六年春三月縁故フカキ安洞院大門ニ移シ以テ顕彰センコトヲ期セリカクテ在天ノ靈魂安ラケク其名ハ秘曲ト共ニ長ヘニ亡ビサル可シ

顕彰碑の碑文

安洞院

の曲は「神保の三谷か三谷の神保か」と言われるほどの神保政之助の代表作である。

その神保政之助が明治初年に福島に来た理由については分っておらず、推測の域を出ないが、福島周辺には新発田藩の飛領があって、福島市八島田に陣屋があり、信夫郡の11か村を支配していたことから、福島のことについては以前から知識があり、全国行脚の折にも立ち寄っている可能性もあったと思われる。

神保が福島に来て虚無僧寺蓮芳軒に入ったのは明治初年であるが、まもなく同４年（1871）に普化宗は廃宗となった。このため虚無僧としての活動はできなかったとみられる。しかし尺八については依然人気があり、普化宗虚無僧寺の廃止によって、それまで武士のみに許されてきた虚無僧尺八が誰でも親しまれることになったとみられ、尺八界での神保の名声が高かったとみられる。明治20年代には福島県内外から百数十名の門弟があったとも言われ、福島の神保のもとへ教えを乞う人が多かったと思われる。

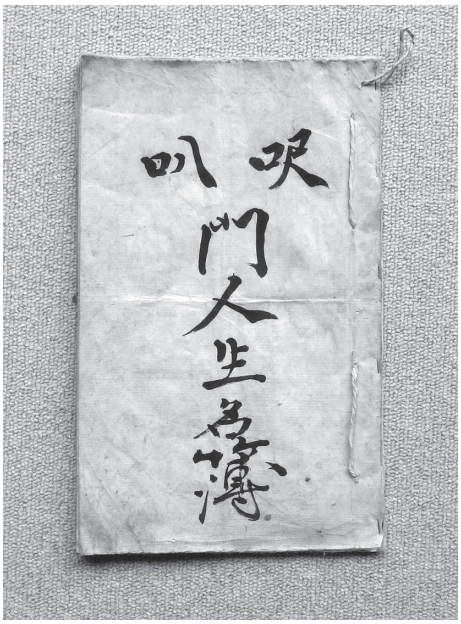
神保政之助は福島市鎌田に住み、ここで門弟の指南に当たったとみられ、大正３年（1914）１月24日中島（現在福島市岡部）の斎藤宅で74歳の生涯を閉じている。

尺八門人帳から

安洞院に保存されている神保政之助の『尺八門人生名簿』には、明治24年から同30年までに入門した門人名と住所がある。遠くは対馬（長崎県）からの入門者名がある。県別に整理すると次のようにある。

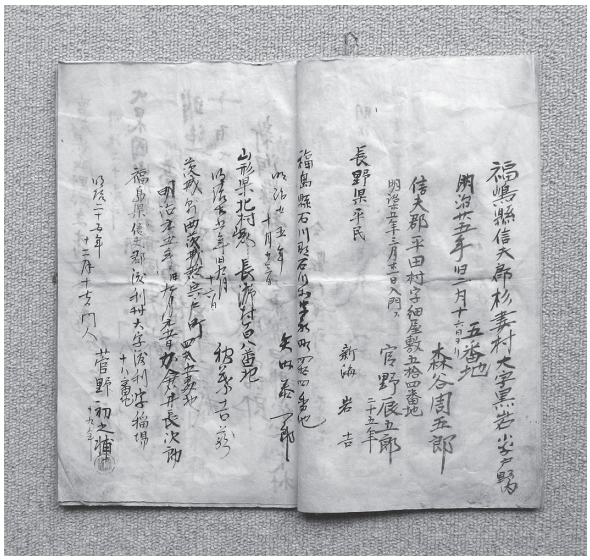
福島県　41名（福島市・伊達市・川俣町・旧安達郡・石川郡・田村郡・いわき市・双葉郡）、宮城県　８名（仙台市・桃生郡・柴田郡・遠田郡・旧名取郡・伊具郡）、山形県　４名（東根市・天童市・東村山郡中山）、茨城県　２名、新潟県３名、長野県　１名、群馬県　１名、石川県　１名、和歌山県　１名、長崎県対馬　１名の計63名の名前がある。

入門者は全国各地に及んでいる。遠方からの入



神保政之助門人帳

安洞院



門人名（門人帳）

安洞院

門者は「止宿」とあることから宿泊しながら教えを受けたとみられる。年齢の記入があるのをみると19歳が２名、20歳が４名、25歳が２名、26歳が１名とあり、若い人の入門者も見られる。

現在ある門人帳は１冊のみであるが、実際の門人数はこれ以上であったと考えられる。

福島藩と蓮芳軒

神保政之助が頼って来たと思われる福島の虚無僧寺蓮芳軒は、全国各地にあった虚無僧寺と同様、普化宗を宗派とした。虚無僧寺が隠密的な活動をしたことは、道中手形なしで関所を通れる特権を持ったことなどから推察されるが、蓮芳軒は幕末に福島藩から世情の探索を命ぜられている。藩の記録『政事集覧』に、元文３年（1738）２月28日に蓮芳軒に風聞の聞き取りを初めて申し付けるとあり、旅費の一部として金200疋を与えるとしたが辞退するも、結局渡したとある。さらに岩城平藩で百姓大騒動（一揆）が起こり、周辺の藩へ援兵を出すようにとの噂があるため、確かめることを密に申し付けている。翌４年（1739）には仙台沖に唐船が見えたため、様子を聞きに遣わすよう申し付け、金３両を渡している。寛保２年（1742）３月には白河城下で百姓騒動が起こり、その様子の探りを蓮芳軒に申し付けている。延享４年（1747）６月には山形の百姓一揆、寛延３年（1750）には三春と二本松、会津の百姓一揆の様子を見届け帳面に書いて差し出すように申し付け、金３両を渡している。

虚無僧寺蓮芳軒は文政９年（1826）に相対勧化の願いを藩役所へ出している。相対勧化とは、金品募集の手段として人々に功徳を説くことで、日吹とあることから尺八を吹き勧化を行う許可を申し出たのであろうと思われる。檀家を持たない虚無僧寺ならではであった。

福島に全国からの入門者があった尺八の名人がいたということ、そして虚無僧寺があったことはほとんど知られていない。福島の文化史の一つとして広く伝えたいと思う。

今回、神保政之助関係資料の提供をいただいた安洞院様に、この場を借りて感謝申し上げます。

参考文献

中塚竹禅『琴古流尺八史観』　日本音楽社
栗原廣太『尺八史考』　竹友社
藤田定興『神保政之輔と神保三谷の曲』
中村明一『倍音』　春秋社